



樹 姉 ば よ り

No.151
2017.05

慈悲喜捨

心理学者であるフロイトは、「精神分析」というカウンセリング理論を確立しました。その特徴は、「幼少期の体験が性格を形成する」「無意識があらゆる行動の原動力になる」ということです。フロイトは、「人間の行動には必ず心理的な裏付けがある」「意識的に行っていることでも、ほとんどが無意識の影響を受けている」と言っています。たとえば、私たちは注意をしながら、間に違ったことをしてしまったり、願望が表れたもので、「妨害される気持ち」と「妨害する気持ち」の二つが葛藤した結果であると考えています。そして、人間の心には矛盾や不可解なことがたくさんあるから、無意識を理解することが確に行動のために重要だと、言っています。また、「精神は「エス」「自我」「超自我」でできていると言っています。エスは、欲望のことで、すべての人間間に備わっている性質です。物の善し悪しなど考えず、自分の快楽と解放だけを、向けた力です。たとえば、赤ちゃんはエスによって動かされています。そして、

人は家族や社会など、環境に触れる機会が増える、と、エスだけではうまくいかないことを自覚し、外から受ける力と、エスを調節する必要性を学習します。このエスと競う心理を「自我」と言います。自我がエスに対して、周囲や世の中に迷惑をかけるないように指示をします。さらに、「超自我」は、エスや自我とはまったく違う、教育や躾を通して、自分のことに形成された良心のことです。エスは準備のことで、同じように超えて、わがままな人が、自我や超自我は、人によつて違いますが、行動や精神が反社会的な行動や精神病に、関係する。フロイトの学説は、当時の社会や時代背景の影響を受け、現代に合わないが、多くの学説が、わたしが根拠を伴い、現代の計画的な根拠を伴い、基礎に力か、カウンセリングの基礎に置かれています。私たちが、さまざまな事柄や考え方を、知り、それを理解して、実践して、いくものにより変化が生じるようになります。偉人のことを学び、よりよい生活を送るようになります。よい生活を送るようになります。

教頭 金安伸一

「ああ樹徳」の一員として

樹徳高等学校副校長

野村 聡



初めまして、四月一日付で副校長として新規採用された野村聡と申します。住まいは前橋ですが、桐生は亡き父が生まれ育った土地で、私の本籍地は結婚するまで桐生市相生町でした。子供の頃には、前橋から上電を利用して祖父母の家がある天王宿まで弟らとやって来て、渡良瀬河畔の貯水池跡（現在の桐生西高校があるあたりか）で遊んだことを思い出します。父は十人兄弟の次男でしたので、伯父、叔父、叔母や従兄弟、従姉妹など親戚が現在もたくさん桐生で暮らしています。そうした第二の故郷ともいえる桐生で、桐商と桐女に続いて本校で仕事がか

きることに深いご縁を感じるとともに、幸せなことだと思えます。

三月三十一日までは公立高校に三十六年間在職し、社会科学の教諭として三校、管理職として五校、計八校に勤務しました。地域としては、北毛に五年、中毛十一年、西毛に十三年、そして東毛に七年と県内各地を異動しました。学科では普通科のみならず農業科、工業科、理数科、商業科、英語科、総合学科のある学校に勤務し、専門学科の教育内容や生徒職員の気質の違いも肌で感じました。また、全日制の他に定時制や通信制課程の併置された学校も経験し、独特の勤務形態や学習システムを理解するなど、多様な地域・学科・課程を知る機会を問わずも持つことができました。

初めて私の私学である樹徳に着任して三週間となりますが、職員朝礼における黙想と念仏、そして副校長の日課である「樹妙」の不慣れた拝読。献灯、献華、献香から始まる荘厳で印象深い始業式・入学式など、新鮮な経験にワクワクする毎日です。眠りに就くのも随分と早くなりました。しかし、公立と私学の相違点よりも共通点を強く感じます。それは公立と私学という設置者の違いを超えて、職員が学校関係者としての確かなプライドと強い使命感を持つているということだと思います。先生方は授業において、学級・学年において、クラブ活動において、そして分掌において、生徒をよくするために長い時間を費やして準備・指導し、様々な効果的な手法を工夫するために頭を悩まし続けています。その労力は費用対効果という合理的な尺度からすると、たぶん見合わないように思えます。しかし、教師の報酬は生徒の成長であり、時に思いがけず生徒の口から発せられる感謝の言葉です。教師というのは生徒の「先生、ありがとうごさいます。」という魔法の言葉によってそれまでの一切の苦労が報わ

れ、この上ない幸せな気分となり、「教師をしていて本当によかった。」と涙する存在です。世にも珍しい稀少生物ともいえます。そうしたおめでたく、気持ちのよい方々と引き続き一緒に仕事ができることを、つくづくありがたく思います。また、変化に富んだ学校の暦の中で、心身ともに伸び盛りの瑞々しい樹徳生たちと、生活を共にできることの幸せも日々感じています。

五月二十三日には「緑蔭祭」が行われます。野口秀樹校長先生の説明を引用すると「これは明照学園樹徳（幼稚園、中学校、高等学校）の感謝の祭であります。先ずは本学園の創設者野口周善先生を初め、歴代の先生や職員及び関係物故者に対して感謝の思いを捧げ供養します。」そして在籍している生徒や職員の家族で亡くなった方々も供養してくださいさるといふことで、私も昨年の暮れに母を亡くしているの、丁寧でありがたいことだ

と感じます。法要終了後、定期記念講演会が実施されます。今年の講師はテレビ東京「開運！何でも鑑定団」に鑑定士としてレギュラー出演している北原照久さんです。どんな話が聞けるか今から楽しみです。前任者の池田量先生の人徳や識見には遠く及びませんが、早く生徒や保護者、学校関係者のみなさんに名前を覚えていただき、これまでの経験を生かし樹徳の一隅を照らす存在になればと思います。また、今年度から始まった男女共学化を、みなさんと共に学校の魅力の一つとして、是非とも定着させたいと考えています。どうぞ、よろしくお願

合掌



今月の法語

あなたと一緒だと
元氣十倍 勇氣百倍
ひろはまかずとし

家庭の役割

新しい学年が始まり、一ヶ月が経とうとしています。特に一年生は、新しい学校、新しい環境での生活がスタートしたわけですが、ご家庭での子どもたちの様子はいかがでしょうか。

言うまでもなく、家庭は家族のやすらぎの場であり、また、社会生活に適合するために必要な精神的成長を促す場でもあります。社会環境や生活様式の変化、価値観の多様化など、子どもたちを取り巻く環境は、我々大人が望むようなものでは決してありません。このような時代だからこそ、親として、家庭のあり方を再確認しておく必要があるでしょう。

保護者の皆さんは、子どもが親の期待するよう
な言動をしなくなる、あるいは何かにつけて我を
通そうとする、いわゆる
反抗期という時期を、既
に経験していると思いま
す。反抗期に見られる態
度や言葉の多くは、親に
対する思いの表れである
わけですが、実際には、
そのことを正しく理解
し、自らの子育てのあり
方を素直に見つめ、命令
指示調の指導から、子ど
もとともに考え歩む、と
いう、心の理解を大切に
した指導に改めようとす
る姿勢を持ってない大人が
多いことも事実です。反
抗期の親の対応は、子ど
もの自立心の健全な発達
を左右しますから、こと
は慎重に行われなければ
いけません。もちろん、
子どもたちの言い分ばかり
を聞く、ということでは
ありません。明らかに
良くない行為、思想に対

して、時には、毅然とし
た態度で大人社会の価値
観や規範精神などを教え
る、真に愛情ある指導は
なされるべきです。しか
し、現実には、子ども
心の変化を理解せず、叱
責や強制などに偏ること
が少なくありません。
高校生に「親が自分を
理解してくれているかど
うか」を聞いてみると、
大半の生徒が「どちらと
もいえない」と答えます。
これは、悪くはない、と
いう捉え方もできます
が、家庭において、コミュ
ニケーションの場である
ところの家庭として、問
題点があるということも
認識しなければなりません。
親にとっても、子
どもが学生生活を送る時
期は、子とともに親も成
長する、いわゆる「共育
の時代」なのですが、そ
れを理解できなかった結
果、親の勤め先さえ知ら
うとしないほど親子の溝
が深くなってしまう事
例もあります。子どもた
ちにとって、家庭はまず、
自分たちの存在を保障し
てくれる心のやすらぎの
場でなければならぬの

です。大人がまず、つい
「子どもたちのために」
と考えるあまりに狭くな
りがちな「視野」を広げ、
大きな度量で、子どもた
ちを包み込む、そのよう
な家庭のあり方を考えた
いものです。
(生徒指導部)

何でもないよつな

振り返れば何でもな
かったようなことが、あ
のころはとても気になっ
て、放っておくことがで
きなかった。なんだか昔
の流行歌の歌詞のようで
すが、それが少年期の多
感さというものではない
でしょうか。

ちよつとしたこ
とにも悩み、苦
しみ、傷つく中
で、自分を見つ
め、徐々にその
視点に客観性を
加えていく、そ
の過程を経て大
人になっていく
わけですが、そ
こに至るのは容
易ではありません。
樹徳高校
には、生徒の健

全育成を目指して「カウ
ンセラー室」が設置され、
生徒や保護者の悩み、問
題に対処しています。毎
年、多くの相談を受け付
け、また、電話による相
談も相当数にのぼりまし
た。その内容は様々です
が、内容の軽重はともか
く、本人にとって、また、
その親御さんにとって、
誰かに話したいことであ
ることは事実です。また、
他人には知られたくない
内容であることも多いと
思います。それが問題の
解決を困難にしている場
合も多いようです。個人
の秘密は厳守します。気
軽にご利用ください。
(カウンセラー室)



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」 5月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生藤工芸」
主催 野村ナナ子さん 18日(木)・25日(木)
- (2) 七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 15日(月)
- (3) 販売実習 13日(土)・14日(日)
 - ①「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ②「星野富弘美術館」取扱い商品
 - ③東北復興支援商品 (缶詰等)

新入生の皆様 ご入学おめでとうございます ございます

第一学年 学年目標

○『望ましい生活習慣の確立と、人間関係の形成』
○『学力の向上と、学習習慣の定着』



須藤 雅人

風が薫る季節です。新緑がまぶしい時でもありません。若葉のようにフレッシュな新入生達は徐々に学校にも慣れ、高校生としての生活リズムを築きつつあります。

平成二十九年年度新入生から男女共学となり、樹徳高校の新しい歴史を展開していく記念すべき春となっております。長年本校に勤務している私達は、男子生徒と女子生徒が並んで座っている教室に、当初は慣れない感覚でいましたが、その

度に気持ちを引き締め、新たなスタートを再認識しながら取り組んでおります。さて、年度のはじめに当たり、幾つかのメッセージを新入生諸君におくります。

一、目標の設定

将来の自分の姿・求める人間像が明確でなければ、歩き出す方向が定まりません。行き先がわからないままに時間を浪費することは、好ましいことではありません。なりたい自分になるのです。そのために、自分で自分を見つめ、自問自答し、早期に目標を設定してください。

二、努力の継続

目標が定まったら、あとは努力をするのみです。大切な自分自身です。自分の

ために努力をするのです。これは同時に、自らの存在を肯定すること、有用性を高めることでもあります。諸君を見守ってくれている保護者をはじめとする人々を喜ばせることにも繋がります。

三、ルールを守る

高校生です。半分、大人です。自制心・公共心・感謝・奉仕・忍耐。これらは当然のごとく、あらゆる場面で要求されます。できて当たり前です。

「かんのんさまがみている。ほとけさまがみている。みんなみている。ちゃんとみている。」
基盤を固めましょう。

第一学年副主任

飯田 豊



一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。多くの新入生を迎え、大変嬉しく思っています。

入学して一ヶ月ほどたったわけですが、学校にはもう慣れましたか。うまくいかないことや、不安なこと

があるかもしれませんね。そのようなときには、一人で悩まずに、担任や副担任の先生方に相談して下さい。本校にはカウンセラーの先生方もいらっしゃいます。とにかく樹徳高校の全員が、皆さんのことを全力でサポートしていきますので、どうぞ安心して学校生活を送ってください。

皆さんのことを支えてくれる存在として、友人も忘れることはできませんね。入学してすぐに宿泊オリエンテーションが行われました。クラスの親睦を深めることが目的でしたが、新しい友人を作ることができましたか。

ながりも大切です。そういう意味で、部活に入ることをお勧めしたいと思います。樹徳高校には多くの部活があり、皆さんが一生懸命に取り組めば、どの部活であっても、高校生活を充実させるために、大きな役割を果たしてくれるはずです。中学時代にやってきた部活を続けるもよし。新しい部活に挑戦するもよし。

最後に、学習面について少し触れておきます。中学校と比べて、高校の学習は難易度も上がり、進度も速くなります。疑問点を残さないで下さい。教科担当以外の先生でも気軽に質問して下さいね。生活面だけでなく、学習面も樹徳高校のサポートは万全ですよ。

校長先生の講話にもありました。高校時代というのは、一生の付き合いになる友人が見つかるときです。私自身、今も付き合いのある仲間のことを考えてみると、高校時代の友人が多いです。そのような友人を沢山作ってください。また、横のつながりだけでなく、縦のつ

第1学年担任紹介

コース	クラス	担任・副担任
総合	J1	内藤雅人・大石絢菜
	J2	長 諒順
	J3	竹澤菜保子・片岡雅樹
	J4	馬込祥貴・吉川友貴
	J5	小林弥生・〔主任〕須藤雅人
	J6	星野寿博・大坂亮輔
	J7	岩上和貴
	J8	松枝 翠・長谷川幸弘
	J9	猪熊唯史・松井香保里
	J9	〔副主任〕飯田 豊
特進	SS	
	K1	新井 誠
特進	K2	阿久澤純江
	1S	関口 悠
進学	学年付き	小野澄一郎
	一貫校	4-1 〔主任〕岡村祐一 4-2 北爪 充

樹徳高校に入学して

桜満開の入学式から早一ヶ月。新樹徳生となった新入生の二人に、入学後の感想と今後の抱負を語ってもらいました。

『私の決意』

一年K1組 新谷 悠真
(太田生品中出身)



私は新入生オリエンテーションなどを通して、ある決意をしました。それは国立大学合格という高い志を持った仲間と合格を目指すという事です。同じクラスに高い志を持った仲間がいるということはとても良い事だと思います。理由は二つあります。

一つ目は分からない問題などを互いに教え合えるという事です。一人で勉強している時は分からない問題があってもその場で解決できませんが、

友達と勉強していれば、その場で解決する事ができます。また、同じ問題でも互いに違う解き方をしていれば、より良い解法にたどり着く事ができます。

二つ目は、互いに切磋琢磨できるという事です。高校では中学と違い、同じ学力の者が多く集まるので、良い刺激になると思います。このような事も合格への近道になると思います。

勉強の決意だけでなく、生活面での決意もあります。それはクラスの中心となり、牽引できる存在になる事です。私はこの決意を春休みには決めていました。そしてこの決意を達成するため、クラスの委員長に立候補しました。いざ委員長になってみると、様々な仕事がありました。大変ですが、どれもやりがいのある仕事ばかりです。私はこの委員長としての仕事を

三年間継続したいと考えています。もちろんそのためには皆からの信頼が不可欠です。そのためにも皆の意見に寄り添いつつも、全力で日々努力し続けていく覚悟です。

これらの決意をもって高校生活に励んでいきたいと思えます。どれも容易ではなく困難にぶつかるかも知れませんが、そんな時はクラスの仲間の協力を得ながら、共に困難の壁を乗り越えて行きたいと考えています。

『私の決意』

一年J1組 村松 愛奈
(伊勢崎殖蓮中出身)



高校生活が始まって、一ヶ月が経とうとしていきます。新しい環境と、ほとんど知り合いがいない中で、不安なスタートでしたが、その不安はわずか数日で解消されました。入学してすぐに実施され

た宿泊オリエンテーションでは、助け合いの心や、何よりも一番大切な友情に気がされました。まだ話したことがなかった子とも会話ができて、また、知っている子の意外な一面を見る事ができる貴重な時間でした。一日でクラスの雰囲気も良くなり、仲間との絆の深まりを感じ、三年間このクラスがいいなと思いました。これから、ゆっくり時間をかけ、クラスメイト一人ひとりの個性や、知らない一面を見つけていきたいと思えます。

クラスは明るくて、个性的で、とても好きです。ふざけたり、やりすぎることもあります。ちゃんとあやまり、反省もするので、雰囲気はともいいたいと思います。ただし、まだ信頼関係は浅いので、これから築いていきたい。そのため、私は副委員長として、委員長と、もう一人の副委員長と一緒に頑張っていきたいと思います。

私は、充実した高校生活を送りたいと考えています。例えば、行事です。本校は、花まつりなどの独特

の行事があり、驚かされました。そして、体育祭や文化祭など、これからとても楽しみな行事が控えています。クラスのみんなや、学校全体で、協力していきたいと思えました。そのため、協調性や思いやり、気遣いなどを意識する必要があります。自分を磨き、力を発揮できるように、準備しておこうと思います。

これから先、ケンをすることもあろうでしょう。それでも、泣く日も、笑顔の日も、このクラスメイトと共にあって、楽しく充実した日々を送れそうです。先生方にもあまり迷惑をかけないように、自分たちでできることは自分たちでやっていこうと思います。当たり前前のことを当たり前に行い、思いやりの心を養い、信条と六省を胸に、勉強や行事に励みます。もっとみんなと仲良くなり、色々なことをなしてあげていきたい。一年間、有意義に過ごしたいと思えます。

これから迷惑をかけると思いますが、よろしくお願ひします。

一貫校

中学校

だより

◆入学式

四月八日（土）に、十七期生三十名が無事入学式を終えました。当日は雨もちらついていましたが午後、式が始まるころにはすっかり止み、新入生の門出を祝ってくれるようでした。

【歓迎の言葉】

三年一組 柏瀬莉緒
春うららかな風に乗る桜の花びらが美しく舞う今日この佳き日に入学式を迎えられた第十七期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

百年の伝統を誇る我が明照学園に、中高一貫校が開設され十七年目を迎えました。
仏教の教えに基づき、「明るく、正しく、仲良く」の教えを実践する本校に、元気で明るい新入生を迎えることができ、私達はとても

嬉しく思います。さて皆さんは今、どのような思いでいますか。新しい学校での生活を迎えるにあたって、期待や不安でいっぱいのことと思います。しかし、心配はいりません。生徒一人ひとりを大切に、熱心に御指導をしてくださる先生方、優しく頼れる先輩方、そして何より、同じ志を持った仲間がいます。分からないことや困ったこと、悩み事などがあつたら、一人で抱え込まず、先生方や私達に何でも相談してください。親身になって相談のります。

また一貫校には他の学校にはない様々な行事があります。皆さんも楽しみにしててください。樹徳中学校は創立してから歴史の浅い学校ですが私達にはたくさんの方の尊敬する先輩方がいます。

昨年度は十一期生が大学受験に挑み、数多くの難関

大学への合格を勝ち取り、それぞれの夢に向かい、そして樹徳の誇りを胸に羽ばたいていきました。
私達在校生も先輩方の後に続くとう日々、努力を積み重ね、頑張っています。皆さんも早く樹徳中学校での生活に慣れ、たくさんの友達を作り、勉強に部活動に励み、私達とともに成長し充実した中学校生活を送って参りましょう。そして、良き伝統、校風を築き上げていきましょう。

◆中学校生活の抱負

- ・最後に「夢は大きく、根はふかく」この言葉を送り、歓迎の言葉といたします。
- ・全ての教科を得意科目にする。 島村祐多
- ・勉強と部活を頑張る。 高木翔大
- ・先生の話をしっかりと聞く。 新島圭太
- ・明るく楽しく仲良く過ごす。 初志貫徹。
- ・人の話をよく聞き勉強する。 馬場千学
- ・国語数学など勉強を頑張る。 二津結斗



- ・たくさんの事にチャレンジしたい。 今井尚子
- ・行事を頑張る、友達を増やしたい。 岩崎京華
- ・悔いの残らない学校生活を送る。 金子萌夏
- ・授業でたくさん発言する。 久保田りか
- ・分からないことを積極的に聞く。 関根奈南
- ・いっぱい勉強をしたいです。 友野貴美子
- ・絶対に忘れ物をしないようにする。 西場愛桃
- ・感謝の心を持って生活する。 宮田昂穂
- ・将来の夢に向けてコツコツ勉強する。 六本木暖生

- ・他人に言われずに自ら行動する。 岩田脩裕
- ・歴史の成績でトップテンに入る。 小林光輝
- ・部活と勉強の両立。 山崎帆久翔
- ・テストで五位以内に入りたいです。 吉田遙人
- ・数学を得意にしたいです。 稲垣結衣
- ・テストで七十五点以上取ることです。 大塚葵
- ・勉強できないことをなくしたいです。 加藤里咲
- ・忘れ物をしないようにする。 坂口莉彩
- ・登校時に事故にあわないようにする。 高草木真子
- ・勉強を最大に努力し倍の成績を上げる。 東郷遙
- ・数学検定で四級を取る。 藤田莉乃葵
- ・友達の名前と顔を覚える。 森下夢菜
- ・本をたくさん読む。 諸岡明音
- ・あいさつをして礼儀正しい生活をする。 安井結和
- ・自ら進んで考え行動する。 吉川翠華

幼稚園だよい

「土台を大切に 新しい風を」

風薫る五月、さわやかな風が吹き、戸外遊びにはぴったりの季節を迎えました。園生活のリズムに大慣れ、子どもたちの表情に笑顔や余裕がみられるようになって、園中に子どもたちの笑い声が響いています。また、園庭では鯉のぼりが元気よく泳ぐ下で、「鯉のぼりには負けないぞ!」と、子どもたちが元気によく走り回っています。



チューリップを満喫しました

新年度もスタートして早一ヶ月。先生方は楽しいクラス作りや、子どもたち一人ひとりの成長に向けての計画作り、保護者面談に向けての準備等に追われています。

母の会も総会を終えて、二十九年度がスタートしました。新役員の皆さんと、今年度も連携して子どもたちのために、力を合わせて頑張りたいと思います。ご協力よろしく願っています。

「時代の変化と 幼児教育(保育)」

日本の幼児教育は、教育機関としての幼稚園と児童福祉機関としての保育所という二系統の保育・幼児教育施設の中で、今日まで至っていますが、これは世界的に共通しています。戦後はこれらが法律にも規定されて、国、自治体からの保護、援助も始まって、双



鯉のぼり掲揚

方ともども発展してきました。しかし、世界の一元化の流れを受けて、日本でも一元化、一体化する動きが始まり、二〇〇六年には認定こども園という名称の一体化施設の設置が認められました。

その後、経済の不景気状態が続く、女性の社会進出が増えたこと、第三次産業中心の産業に変化し、女性の労働能力が高く評価されることも、子どもが三歳になる前から働きに出る女性が増えてきました。幼稚園で、〇歳から二歳児を保育してくれば、という要望が多くなってきています。

九〇年代に、子どもが外で群れて遊びながら育つという環境がほぼなくなり、また子どもに家庭の仕事を手伝わせて育てるという習慣も、皆無状態になってい

る今日。これまで人類が子どもを育てる場であった子どもの「生活」が大きく様変わりし、子どもの身体のしなやかさや、工夫する力、臨機応変にあれこれ処理する力、協働する力等の人間の基礎能力が育つ場がなくなってきたのです。

そのため、産んだ子どもの子育てが核家族化した家庭に全面的にゆだねられ、ストレスやイライラ育児をする母親の急増や、働いていなくても早くから保育所等に子どもを預けたいという要望が、専業主婦家庭にも増えてきました。そこで幼稚園に入る年齢を、大きく下げることが課題となり、「保育に欠ける」要件を満たさなくても、入園できる制度の整備が課題となっており、現在の新制度に至っているといえます。

「新制度への試み」

本園では、六十五年の歴史と伝統を大切にしながら現在の幼稚園教育を土台に、本年度より満三歳児クラスを新設しました。初めての体験となる満三歳児・二歳児クラスの教育(保育)を、

ていねいに具体化して、計画的に取り組むためです。具体的には、三歳児がこのくらいできるのだから、二歳児ならこの程度だろう、という発想で保育をくむのではなく、二歳児なら二歳児の、AちゃんならAちゃんの、その時々の子の育ちのテーマを把握すること、それを感じ取って、それぞれの育ちたいという気持ちに寄り添うこと、その育ちをじっくり温かく支える保育への実践であります。

新制度への移行が、子どもたちの幸せと、よりよき未来を作れるよう、園として計画的にしっかりと準備していきたいと思えます。関係各位のご支援よろしくお願いたします。

園長 瀬谷 茂

入園児募集

○平成三〇年度認定こども園(幼稚園型)へ移行予定
○二歳から入園できます
※詳細は電話かホームページをご覧ください。
☎〇二七-五三一五五七
<http://www.jutokud.jp/>

Kinder

5月(正思)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	月	学校要覧・基本調査作成基準日 内科検診③ 生徒募集要項作成開始 LHR(心理適正検査)	梅田山荘合宿(～2日・中1)	ダンス(全)
2	火	後援会総会準備会 授業料納入日 校外学習(遠足) 下見2年①		保育料納入日
3	水	憲法記念日		
4	木	みどりの日		
5	金	こどもの日		
6	土			
7	日			
8	月	朝礼 県総体社行会 夏服引き渡し 校外学習(遠足) 下見2年②		花祭り(大善寺) 年少・個人面談(～12日) ダンス(全)
9	火			
10	水	マイトリー基金抛金日 校外学習(遠足) 下見2年③		内科検診 英語(全)・文字(年長)
11	木	薬物乱用防止講演会 県高P連本部役員会 校外学習(遠足) 下見2年④		体育(全)・文字(年中)
12	金	県高校総合体育大会(～14日)	新体力テスト 市街地清掃	歯科検診 群私幼定時総会
13	土	3年河合記述模試①		
14	日			
15	月	LHR 内科検診④		年中・個人面談(～19日) ダンス(全) 航空写真撮影
16	火	検尿① 校外学習(遠足) 下見3年		航空写真撮影予備日
17	水	後援会総会 授業参観 検尿②(5/16未提出者)	早朝自主学習(～25日) 授業参観日(高等部)	お茶のお稽古①(年長) 英語(全)・文字(年長)
18	木	歯科検診② 高校総体陸上(～21日)		体育(全)・文字(年中)
19	金	小児生活習慣病検診 貧血検査		4・5月生まれ「お誕生会」 母の会歓送迎会
20	土	1・2年河合全統模試① 3年学研VSP模試①	中高一貫校見学会① 茶道教室(中1)AED講習会(中2)	
21	日	樹妙会総会		
22	月	LHR 緑蔭祭会場作成		年長・個人面談(～26日) 虫歯予防教室(年長) ダンス(全)
23	火	第34回緑蔭祭・記念講演 二代目校長ご命日(39回忌)	第34回緑蔭祭・記念講演	緑蔭祭(年長代表参加)
24	水	中間試験(～26日)	中間試験(～25日)	英語(全)・文字(年長)
25	木	第1回法人役員会(15:00～)		体育(全)・文字(年中)
26	金	歯科検診③ 制服アフターサービス 3年就職ガイダンス①		法人役員会
27	土		校内弁論大会	
28	日	全経簿記検定①		
29	月	LHR 初代校長ご命日(68回忌)		ダンス(全)
30	火	県私学保護者連合会総会(ラシーネ)		
31	水	校外学習(遠足) 出欠統計 前期教育実習生オリエンテーション	遠足(高等部)	群私幼PTA総会(会長・副会長) 英語(全)・文字(年長)

※1日は高等学校・一貫校・幼稚園の安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業株

夢は大きく 根はふかく